

調査レポート

沖縄県内における2020年プロ野球春季キャンプの経済効果

— 経済効果は121億6,800万円 —

【要旨】

- ・ 2020年の沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの経済効果は、121億6,800万円となり、2019年の141億3,100万円を下回った。
- ・ 延べ観客数は、約35万4,000人となり、前年より約5万4,000人減少した。オープン戦が前年と比べて6試合多い13試合行われたほか、例年より降水量が少なく天候に恵まれたが、全国的に新型コロナウイルスが感染拡大しつつある状況が反映した。球団は感染症対策としてファンサービスの自粛を行ったほか、観客に対して練習試合、オープン戦の際のマスクの着用やアルコール消毒の呼びかけ、ジェット風船による応援の自粛要請などを行った。こうした対応を受け、観客にも徐々に自粛ムードが広がった。
- ・ 観客数のうち県外からの観客は約8万3,000人と推測され、前年より約9,000人減少した。
- ・ 今年の経済効果は、前年と同じ球団数でのキャンプ実施であったが、観客数の減少や県外からの観客減少による宿泊費や飲食費、土産・グッズ購入費の減少などから減少となった。
- ・ 今年の経済効果を産業別に多い方からみると、宿泊業が26億4,100万円、飲食サービス（飲食店など）が15億5,400万円、商業が14億900万円などの順であった。
- ・ プロ野球春季キャンプは、観光のオフシーズンに多くの観客や関係者が来沖し消費活動を行うことから、県経済に与える影響は大きい。春季キャンプでは選手と観客との距離が近く、ファンサービスは大きな魅力の一つとなっている。今後はコロナ禍での対応を前提としたキャンプの継続実施や観客数および県内消費額の増加に向けた取組みが必要である。県や市町村、民間が連携して受け入れ態勢を整備するとともに、地域活性化に繋げる仕組みづくりがますます重要となっている。
- ・ プロ野球春季キャンプをはじめとしたスポーツ産業は、観光需要の平準化において重要な産業であり、県経済の活性化に向け期待される役割は大きい。

1. 2020年の春季キャンプの概要

(1) キャンプ実施球団の状況

2020年2月に沖縄県内で春季キャンプを実施した国内プロ野球球団は、12球団中9球団で前年と同じ球団数となった(図表1)。1軍キャンプは9球団、2軍キャンプは前年より1球団増え6球団、3軍キャンプは前年より1球団減り、0球団となった。

当初の日程では、今夏は東京五輪の開催に合わせて公式戦を中断する影響で、セ・パ両リーグの開幕が前倒しされる予定であった。そのため、2020年の春季キャンプではオープン戦の試合数が前年より6試合多い13試合となった。また、2017年の春季キャンプ後から解体、建設工事が行われていた名護市営球場が「タピックススタジアム名護」としてリニューアルオープンし、日本ハムが5年ぶりに名護でキャンプインした(以下、球団名は「日本ハム」のような略称を用いる)。

(図表1) 沖縄県内における2020年春季キャンプの実施状況

| 球団名 (略称) | キャンプ地 | 開催球場 | キャンプ期間 | | |
|-------------------------|-------------|--------------------------|--------|----|-----------------------------|
| | | | 2月 | 3月 | 日程 |
| 北海道日本ハムファイターズ (日本ハム) | 名護市 国頭村 | タピックススタジアム名護 | → | | 2/1~2/25 |
| | (2軍) 国頭村 | かいぎんスタジアム国頭 | → | | 2/1~2/21 |
| 広島東洋カープ (広島) | 沖縄市 | コザしんきんスタジアム | → | | 2/13~2/26 |
| | (2軍) 沖縄市 | コザしんきんスタジアム | → | | 2/1~2/11 |
| 中日ドラゴンズ (中日) | 北谷町 | 北谷公園野球場 | → | | 2/1~2/26 |
| | (2軍) 読谷村 | オキハム読谷平和の森球場 | → | | 2/1~2/28 |
| 横浜DeNAベイスターズ (DeNA) | 宜野湾市 | アトムホームスタジアム宜野湾 | → | | 2/1~2/26 |
| | (2軍) 嘉手納町 | 嘉手納町野球場 | → | | 2/1~2/26 |
| 東京ヤクルトスワローズ (ヤクルト) | 浦添市 | ANA BALL PARK 浦添 | → | | 2/1~2/25 |
| 阪神タイガース (阪神) | 宜野座村 | かりゆしホテルズボールパーク宜野座 | → | | 2/1~2/26 |
| 東北楽天ゴールデンイーグルス (楽天) | 久米島町 金武町 | 久米島野球場 金武町ベースボールスタジアム | → | | 久米島町2/1~2/9 金武町2/11~2/20 |
| | (2軍) 久米島町 | 仲里野球場 | → | | 2/1~2/18 |
| 千葉ロッテマリーンズ (ロッテ) | 石垣市 | 石垣市中央運動公園野球場 | → | | 2/1~2/13 |
| | (2軍) " | " | → | | 2/1~2/25 |
| 読売ジャイアンツ (巨人) | 那覇市 | 沖縄セルラースタジアム那覇 | → | | 2/15~2/25 |

※球団は沖縄県でのキャンプを始めた年の順で掲載

(2) キャンプ参加者・観客の人数

①選手・球団関係者・報道陣

今年のキャンプ参加人数は、選手（1～2軍計）・球団関係者は全9球団合計で約1,090人（前年比約10人増）となり、報道関係者や解説者は約2,200人（前年比約300人減）となった。報道関係者や解説者は、東京五輪に向け、野球日本代表の稲葉篤紀監督が各球団の視察を行ったほか、ロッテのドラフト1位、佐々木朗希選手が県内キャンプに参加したことなどから注目を集めたが、前年よりキャンプ期間が短くなった球団が多かったことや球団による感染症対策により、例年通りの取材が難しくなったことなどから減少した。

②観客数

キャンプ期間中の延べ観客数は、約35万4,000人（オープン戦含む）となり、前年（約40万8,000人）より約5万4,000人減少した。オープン戦が前年と比べて6試合多い13試合行われたほか、例年より降水量が少なく天候に恵まれたものの、全国的に新型コロナウイルスの感染が拡大しつつある中、県内においても2月中旬に初の感染が確認された。こうした状況を受け、球団は感染症対策としてファンサービスの自粛を行ったほか、練習試合、オープン戦の際は観客に対してマスクの着用やアルコール消毒の呼びかけ、ジェット風船による応援の自粛要請などの対応をとった。こうした動きにより観客にも徐々に自粛ムードが広がったことなどから減少した。

そのうち、県外からの観客数は約8万3,000人と推測され、前年（約9万2,000人）より約9,000人減少した。

2. 経済効果の試算について

(1) 春季キャンプの関連支出額（直接支出額）

キャンプでは、県外からの観客が県内で宿泊、飲食、娯楽レジャー、土産品・グッズ購入などに支出するほか、多くの県民がキャンプ地へ出かけて飲食や土産品・グッズを購入する。また、受入地の市町村による練習施設等のインフラ整備や、協力会によるキャンプ応援のための関連経費の支出などがあり、これらを合計したものが直接支出額となる。

この直接支出額を推計すると、総額で86億1,600万円（図表2）となり、前年（92億8,000万円）を6億6,400万円下回った。

試算結果の内訳をみると、宿泊費が26億3,900万円で最も多く、次いで飲食費が19億300万円、土産品・グッズ購入14億2,100万円、交通費12億1,500万円、娯楽・レジャー費8億3,800万円、練習施設等の整備費1億6,800万円などとなっている。

県外からの観客減少などにより宿泊費（前年比1億7,700万円減）や土産品・グッズ購入（同1億4,800万円減）、娯楽・レジャー費（同1億1,100万円減）など多くの項目で減少となった。

（図表2）2020年プロ野球春季キャンプ関連支出額（直接支出額）

| 支出項目 | 支出額 (百万円) | 前年差 (百万円) |
|------------|--------------|--------------|
| 宿泊費 | 2,639 | ▲177 |
| 飲食費 | 1,903 | ▲106 |
| 土産品・グッズ購入 | 1,421 | ▲148 |
| 交通費 | 1,215 | ▲103 |
| 娯楽・レジャー費 | 838 | ▲111 |
| 練習施設等の整備費 | 168 | 3 |
| クリーニング代 | 66 | ▲6 |
| アルバイトへの支払い | 66 | 10 |
| 施設等使用料 | 49 | 7 |
| その他 | 252 | ▲33 |
| 合計 | 8,616 | ▲664 |

(2) 春季キャンプの沖縄県内における経済効果

まず、県内の産業全体の自給率は100%ではないため、(1)で求めた直接支出額86億1,600万円に自給率を掛けると県内で供給された分である75億9,300万円が求められ、これが直接効果となる。

次に、直接効果である宿泊費、飲食費、交通費、施設整備費などが県内で支出されると、当該産業だけでなく、こうした産業に原材料、サービス等を提供している産業の売上増加へと波及していく。これを1次間接効果といい、これが29億8,600万円となる。さらに、直接効果と1次間接効果で生じた各産業における雇用者の所得増加は、これら雇用者の消費支出を増加させ、関連する各産業の生産を誘発していく。これを2次間接効果といい、これが15億8,800万円となる。

これらの直接効果、1次間接効果、2次間接効果を合わせた金額が121億6,800万円となり、これがいわゆる県内におけるプロ野球春季キャンプの経済効果となる。

また、これらの効果のうち、賃金等の雇用者所得や企業の営業余剰などに当たる粗付加価値額が65億7,000万円となり、この中で雇用者所得が29億3,500万円となる(図表3)。

今年の経済効果である121億6,800万円は、これまでで最も大きかった2019年の141億3,100万円を19億6,300万円下回った。

(図表3) 2020年プロ野球春季キャンプ経済効果の試算結果

【単位:百万円】

| | 経済効果 (生産誘発額) | 粗付加価値 誘発額 | | |
|-------------|-----------------------|--------------|-------------|-------|
| | | 雇用者所得 誘発額 | 営業余剰 誘発額 | |
| 直接効果 | 7,593 | 3,877 | 1,779 | 912 |
| 1次間接効果 | 2,986 | 1,681 | 742 | 437 |
| 2次間接効果 | 1,588 | 1,013 | 415 | 304 |
| 総合効果 (経済効果) | 12,168 | 6,570 | 2,935 | 1,654 |
| 直接支出額 | 8,616 | — | | |
| 波及効果 | 1.4 (倍) …(総合効果/直接支出額) | | | |

(注) 1. 直接効果は、直接の支出による効果(自給率が100%でなければ移輸入の分、直接支出額を下回る)。

2. 1次間接効果は、原材料を他の産業から購入することによって起こる波及効果。

3. 2次間接効果は、直接効果、1次間接効果によって生み出された雇用者所得の増加が個人消費の拡大を通して再び生産を誘発する効果。

4. 生産誘発額は、直接支出の増加により誘発された各部門の生産額の合計。

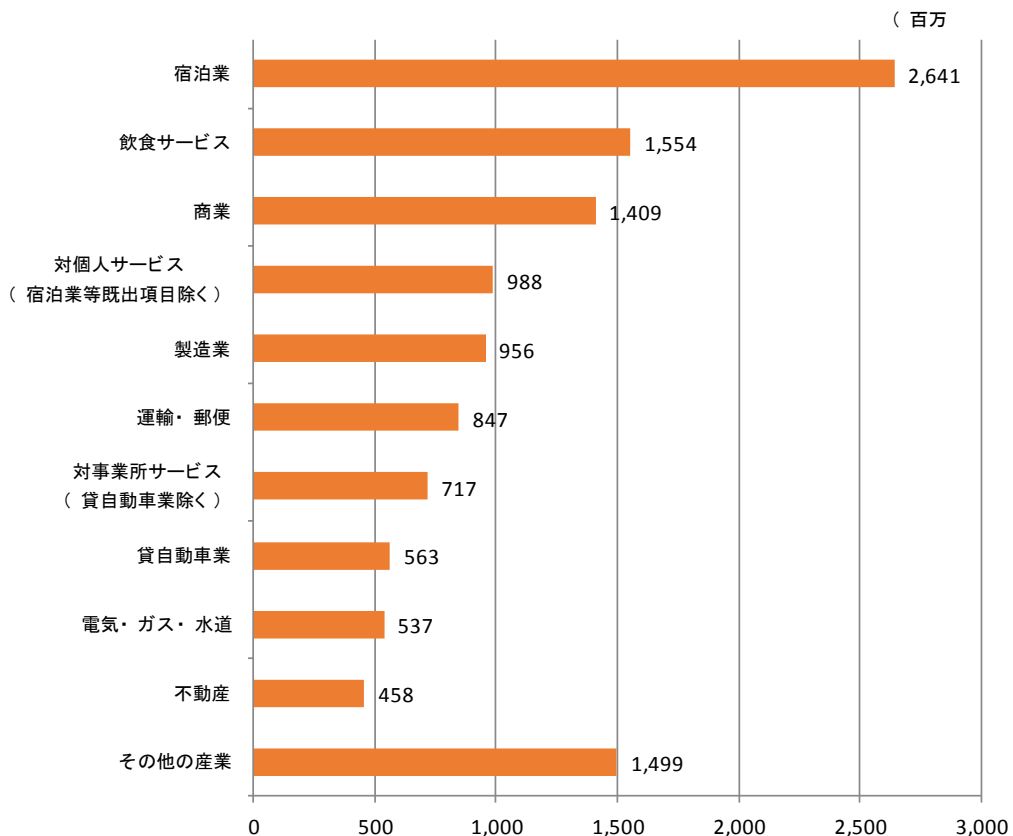
5. 付加価値は、誘発された生産額の中に占める粗付加価値(雇用者所得や営業余剰など)。

6. 端数処理により合計は合わないことがある。

(3) 産業別の経済効果

今年の経済効果である121億6,800万円を産業別にみると、宿泊業が26億4,100万円と最も大きく、次いで飲食サービス（飲食店など）が15億5,400万円、商業が14億900万円、対個人サービス（宿泊業等既出項目除く）が9億8,800万円、製造業（土産品製造や食品加工など）が9億5,600万円、運輸・郵便が8億4,700万円の順となった（図表4）。

(図表4) 2020年プロ野球春季キャンプにおける産業別経済効果



3. キャンプ経済効果の課題

今年のプロ野球春季キャンプの経済効果は、121億6,800万円となり、経済効果、観客数ともに前年を下回った（図表5）。

キャンプ実施球団は前年と同数の9球団となった。

これまで県内の各球団協力会、友の会などでは、引き続き県内キャンプを実施してもらうため、球団からの要望に対してスピード感を持って対応している。特に施設の整備については、老朽化した球場施設の改修や建替えのほか、雨天時も練習が可能な屋内練習場や投球練習場（ブルペン）、関連施設の新設などが実施され、今年も改善が進められた。安定したキャンプ実施のため、今後も球団からの要望に可能な限り迅速な対応を続けることが望まれる。

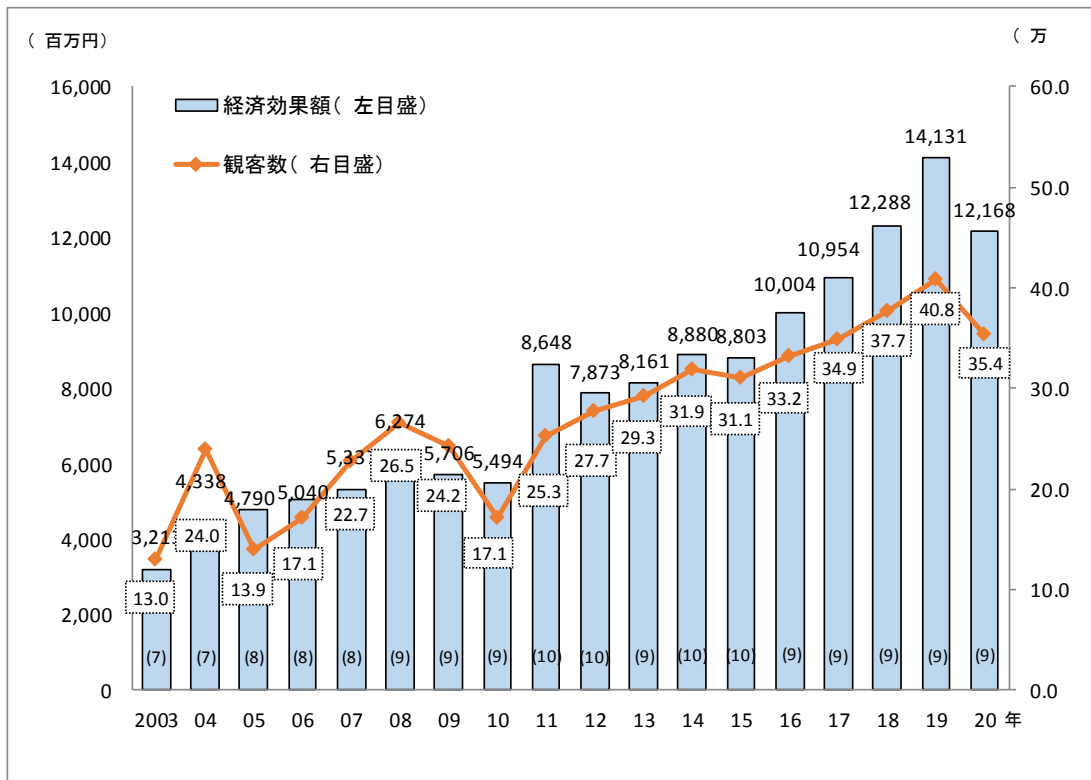
また、今年のキャンプ期間中である2月は全国的に新型コロナウイルスの感染が拡大し

つつある状況で、県内でも球団による感染症対策が講じられた。その結果、選手との交流イベントや少年野球教室などのファンサービスで自粛、中止がみられたほか、観客に対するマスク着用と手洗い、アルコール消毒などの周知を図る球団がみられた。

県内キャンプでは選手と観客との距離が近く、ファンサービスは大きな魅力の一つとなっているが、今後はコロナ禍での対応が求められることから施設整備などのハード面の整備とあわせて、選手の安全確保、警備を含めたソフト面による体制整備がより重要となる。コロナ禍での対応については、春季キャンプ地として共通の課題となるため、県としての対応も求められるであろう。加えて、これまで培ってきたノウハウを活かしつつ、各球団協力会、友の会などで球団側との調整を重ね、観客の要望などを考慮した新しい春季キャンプの形を模索することが求められる。

プロ野球春季キャンプは、観光のオフシーズンに多くの観客や関係者が来沖して消費活動を行うことから、県経済に与える影響は大きい。プロ野球春季キャンプを魅力的な観光コンテンツとしてさらに県内に定着させるためにも、県や市町村、民間が連携して受け入れ態勢を整備するとともに、キャンプ期間中、球団関係者や観客に地域を回遊してもらえるようなPR活動や地域活性化に繋げる仕組みづくりがますます重要となっている。プロ野球春季キャンプをはじめとしたスポーツ産業は、県内における観光需要の平準化において重要な産業であり、県経済の活性化に向け期待される役割は大きい。

(図表5) プロ野球春季キャンプの経済効果と観客数の推移



※ () 内は沖縄県内でキャンプを実施する国内プロ野球の球団数

以上

【補注1】沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの実施状況(1979年～2008年)

| 暦年 | 日本ハム | 広島 | 中日 | DeNA | オリックス | ヤクルト | 阪神 | 楽天 | ロッテ | 巨人 | ソフトバンク | 西武 |
|------|--|-------------|-----------------------------------|------------------------------|------------------------------------|-------------|-------------------|----------------|---------------|----|-----------------------------|-----|
| 1979 | (投手陣) 名護市 | ◎ | | | | | | (○) | | | | |
| 80 | | ◎ | | | | | | (○) | | | | |
| 81 | (一軍) 名護市 ○ | | | | | | | | | ◎ | | |
| 82 | | (一軍) 沖縄市 | ○ | | | | | | | | | ◎ |
| 83 | | | (一軍) 石垣市 | | | | | | | ○ | | ◎ |
| 84 | (一軍) 名護市 (二軍) 宜野座村 | ◎ | | | ○ | | | | | | | |
| 85 | (一軍のみ) 名護市 | | (投手陣) 具志川市 | | | | ◎ | | | | | ○ |
| 86 | | ○ | | | | | | | | | | ◎ |
| 87 | | | (一軍) 石川市 具志川市 | (一軍) 宜野湾市 | | | | | | ○ | | ◎ |
| 88 | | | ○ | | | | | | | | | ◎ |
| 89 | | | (一軍) 石川市 (二軍) 具志川市 | | (投手陣) 糸満市 | | | (○) | (投手陣) 那覇市 | ◎ | | |
| 90 | | | | | (一軍) 糸満市 | | | | | ○ | (一軍) 読谷村 (二軍) 嘉手納町 | ◎ |
| 91 | | ○ | | | (一軍) 糸満市 (二軍) 那覇市 | | | | | | | ◎ |
| 92 | | | | | | ○ | | | | | | ◎ |
| 93 | | | | | (一、二軍) 平良市 糸満市 | ◎ | | | | | | ○ |
| 94 | | | | | (一、二軍) 平良市、糸 満市、城辺 町 | | | | | ◎ | | ○ |
| 95 | | | | | (一軍) 平良市 (二軍) 城辺町 ○ | ◎ | | | | | | |
| 96 | (一軍) 名護市 (二軍) 宜野座村 | | (一軍) 北谷町 (二軍) うるま市 | (一軍) 宜野湾市 (二軍) 嘉手納町 | ◎ | | | | | ○ | | |
| 97 | | | (一軍) 石川市 (二軍) 読谷村 | | | ◎ | | | | | | ○ |
| 98 | | | | ◎ | | | | | | | | ○ |
| 99 | | | ○ | | | | | | | | ◎ | |
| 2000 | | | | | | (一軍) 浦添市 | | | | ◎ | ○ | |
| 01 | | | | | | ◎ | | (○) | | | | |
| 02 | | | | | | | | | | ◎ | | ○ |
| 03 | (一軍) 名護市 (二軍) 東風平町 | | | | | | (一軍) 宜野座村 ○ | | | | ◎ | |
| 04 | | | (一、二軍) 北谷町 読谷村 ○ | | (一軍) 平良市 (二軍) 平良市 城 辺町 | | | | | | | ◎ |
| 05 | | | (一軍) 北谷町 (二軍) 読谷村 北谷町 | | (一軍のみ) 平良市 | | ○ | (一、二軍) 久米島町 | ◎ | | | |
| 06 | (一軍) 名護市 (二軍) 八重瀬町→ 国頭村 ◎ | | (一軍) 北谷町 (二軍) 読谷村 ○ | | (一軍のみ) 宮古島市 | | | | | | | |
| 07 | (一軍) 名護市 (二軍) 国頭村 ○ | | ◎ | | | | | | | ○ | | |
| 08 | | | | | | | | | (一軍のみ) 石垣市 | ○ | | ◎ ○ |

【補注1】沖縄県内におけるプロ野球春季キャンプの実施状況(2009年～2020年)

| 暦年 | 日本ハム | 広島 | 中日 | DeNA | オリックス | ヤクルト | 阪神 | 楽天 | ロッテ | 巨人 | ソフトバンク | 西武 |
|-------------|-------------|---------------|-----|------|----------------|-----------------------------|------|--------------------------------------|---------------|---------------|--------|-------------|
| 09 | ○ | | | | (一、二軍) 宮古島市 | (一軍) 浦添市 (二軍) 八重瀬町 | | | | ◎ ○ | | |
| 10 | | | ○ | | | | | | ◎ | | ○ | |
| 11 | | | ○ | | | | | | | (一軍のみ) 那覇市 | ◎ ○ | |
| 12 | ○ | | | | | | | | | ◎ ○ | | |
| 13 | | | | | | (一軍のみ) 浦添市 | | ◎ ○ | | ○ | | |
| 14 | | | | | | | | | (一、二軍) 石垣市 | ○ | ◎ ○ | |
| 15 | | | | | (二軍のみ) 宮古島市 | ○ | | | | | ◎ ○ | |
| 16 | ◎ ○ | ○ | | | | | | | | | | |
| 17 | | ○ | | | | | | | | | ◎ ○ | |
| 18 | | ○ | | | | | | (一軍) 久米島町 一金武町 (二軍) 久米島町 | | (一、三軍) 那覇市 | ◎ | ○ |
| 19 | | | | | | | | | | ○ | ◎ | ○ |
| 20 | | (一、二軍) 沖縄市 | | | | | | | | (一軍のみ) 那覇市 | | |
| 一軍 キャンプ地 | 名護市/ 国頭村 | 宮崎県/ 沖縄市 | 北谷町 | 宜野湾市 | 宮崎県 | 浦添市 | 宜野座村 | 久米島町/ 金武町 | 石垣市 | 宮崎県/ 那覇市 | 宮崎県 | 宮崎県/ 高知県 |
| 二軍 キャンプ地 | 国頭村 | 沖縄市/ 宮崎県 | 読谷村 | 嘉手納町 | 宮崎県 | 宮崎県 | 高知県 | 久米島町 | 石垣市 | 宮崎県 | 宮崎県 | 高知県 |

- (備考)
- 太線内のシャド一部分は沖縄県内で春季キャンプを実施。○はリーグ優勝、◎は日本シリーズ制覇。
 - 楽天の列の(○)は、05年からオリックスと合併した旧・近鉄のリーグ優勝。
 - 日ハム(1軍)の18年、19年の名護市キャンプは、新球場建築中のためサブグラウンドやブルペンでの練習となる。

【補注2】：本調査で使用した産業連関表について

本件調査では、沖縄県の平成27年産業連関表を用いた。産業部門数で表示する部門表は産業分類35部門表をベースにしたが、35部門表ではキャンプにおける主な支出項目である「宿泊業」や「飲食サービス」、「貸自動車業」等の部門が明示されていない。そのため、これらの産業部門については、県が公表した基本分類表(458行×367列)から該当する業種を抽出した。さらに、今回の分析において統合しても不都合がない部門を当社で統合し、本件調査の分析用に組み替えた。

また、産業連関表における各産業部門の自給率は、県内需要(=県内居住者の需要)に対する自給率であるため、移輸出(=非居住者の需要)は対象外となる。このため、統計上、移輸出である「県外からの滞在者の支出(=非居住者の需要)」の経済効果を試算する際に、そのままの自給率を用いると不都合が生じる。例えば、宿泊業の自給率は、県内居住者の宿泊需要(県外旅行等を含む)のうち県内宿泊部門を利用した割合を意味するが、県内居住者の場合、県外宿泊の支出額が県内宿泊の支出額より大きい場合、県内宿泊業の自給率は低くなる。しかし、キャンプ関連の宿泊費や飲食費は全て県内で発生するため、こうした支出に対して県内での自給率が明らかに100%とみられる宿泊業、飲食店などについては自給率を100%に設定しなおして使用した。

経済波及効果を求める式は以下のとおりである。

$$\Delta X_1 = [I - (I - \widehat{M})A]^{-1} (I - \widehat{M}) \Delta F$$

$$\Delta X_2 = [I - (I - \widehat{M})A]^{-1} (I - \widehat{M}) c k w \Delta X_1$$

$$\Delta X = \Delta X_1 + \Delta X_2$$

ΔX_1 : 一次生産誘発額 (直接効果+一次間接効果)

ΔX_2 : 二次生産誘発額 (二次間接効果)

ΔX : 総生産誘発額 (経済波及効果=直接効果+一次間接効果+二次間接効果)

I : 単位行列

\widehat{M} : 移輸入係数 (対角行列)

A : 投入係数 (行列)

ΔF : 最終需要増加額

c : 民間消費支出構成比

k : 消費転換係数

w : 雇用者所得率